

# わが家の防災メモ

## 家族の連絡先

名前	携帯電話番号	連絡先(職場・学校)	生年月日	血液型	病歴やアレルギー、常備薬など
		名称 電話番号			

## 緊急時連絡先(親戚・知人等)

名前	電話番号	住所	メモ ※家族との関係など

## 災害時の連絡方法

### 災害用伝言ダイヤル「171」

- \*「171」をダイヤルし、利用ガイダンスにしたがって伝言の録音・再生を行ってください。
- \*録音された伝言は被災地の方の電話番号を知っているすべての方が聞くことができます。
- \*提供開始や録音件数等、提供条件についてはNTTで決定し、テレビ・ラジオ等でお知らせします。
- \*詳しくは…  
NTT 東日本  
災害用伝言ダイヤル



### 伝言の録音方法

171 にダイヤルする

▼ガイダンスが流れます

録音の場合 ①

▼ガイダンスが流れます

(0284) ××-××××

### 伝言の再生方法

171 にダイヤルする

▼ガイダンスが流れます

再生の場合 ②

▼ガイダンスが流れます

(0284) ××-××××

被災地内の方も、被災地以外の方も被災地の方の電話番号を市外局番からダイヤルしてください。

足利市役所 危機管理課

〒326-8601 栃木県足利市本城 3丁目2145番地  
TEL 0284-20-2247

令和3年8月 発行

# 洪水・土砂災害 ハザードマップ

保存版

## 洪水・土砂災害ハザードマップの使い方

### ステップ 1

まず、自宅の位置を確認しましょう。  
ご自宅がある場所や周辺が、洪水浸水想定区域や土砂災害警戒区域に含まれるか、地図面で確認しましょう。

### ステップ 2

次に、自宅付近の避難所を確認しましょう。  
自宅に一番近い避難所を地図面で確認しましょう。

### ステップ 3

浸水が深い場所や土砂災害のおそれがある範囲を避けて避難経路を設定しましょう。  
大雨の際は、氾濫する前の早めの避難が必要です。

### ステップ 4

家庭や地域で話し合い、実際に避難経路を歩いてみて、安全を確認しましょう。避難経路に危険な場所がある場合には、見直しましょう。

災害から大切な命と財産を守るために

解説動画が見られます!



足利市



## はじめに

足利市洪水・土砂災害ハザードマップは、大規模な大雨などにより洪水や土砂災害が発生した場合に想定される危険区域について、市民のみなさまにお知らせするとともに、いざというときに安全かつ速やかな避難行動をとっていただくために作成したものです。

このハザードマップでは、国と県が公表している最新の洪水浸水想定区域や土砂災害(特別)警戒区域などを掲載しており、平成25年6月に作成したこれまでのハザードマップと比較すると、洪水による浸水リスクや土砂災害による危険区域が大幅に拡大しています。

まずは、ご自宅や周辺地域などについて、洪水や土砂災害による危険性を確認してください。また、避難や日頃の備えに必要な防災知識なども掲載しましたので、ご活用ください。

洪水や土砂災害による被害は、全国各地で発生しています。本市でも令和元年東日本台風において甚大な被害が発生しました。

災害から大切な命と財産を守るためには、行政はもとより市民一人ひとりの適切な行動が重要ですので、このハザードマップを参考に、家庭の防災計画を作成するなど、積極的にご活用いただきますようお願い申し上げます。

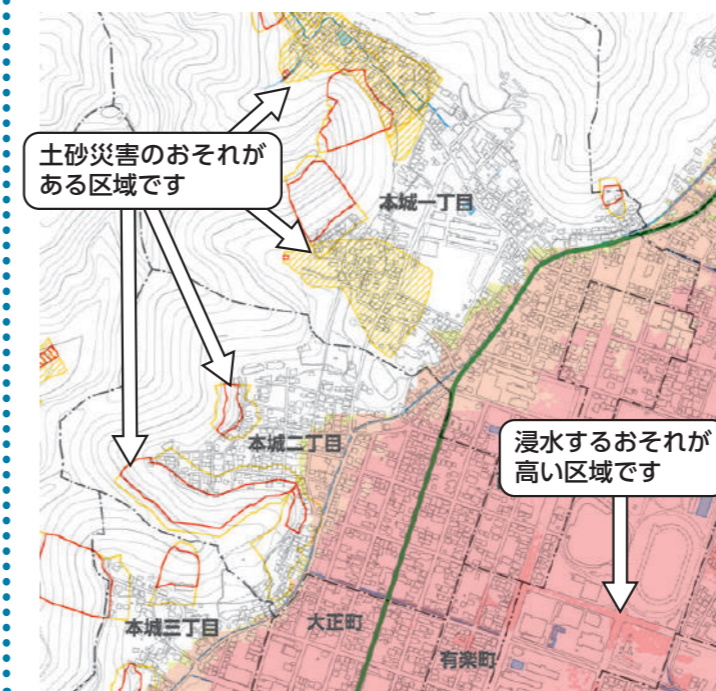
洪水・土砂災害ハザードマップは、国や県が公表している「想定し得る最大規模の降雨」による洪水の区域(洪水浸水想定区域図)と県が「土砂災害警戒区域」、「土砂災害特別警戒区域」に指定した区域を市域図と重ねたものです。

また、このハザードマップでは、被害実績マップや防災・避難情報の入手先等に関する防災学習面の充実を図りました。

ハザードマップの内容と防災学習面を参考に、ご自身・ご家族の避難行動を検討しましょう。

※市域図の道路等は、現況と異なる場合がありますのでご注意ください。

## ハザードマップの見方 ①



凡例									
<b>洪水</b>									
洪水浸水想定区域 (浸水深)	<table border="1"> <tr> <td>3・4階</td> <td>5m~10m未満 (3階床上浸水~4階軒下浸水)</td> </tr> <tr> <td>2階</td> <td>3m~5m未満 (2階床上~軒下浸水)</td> </tr> <tr> <td>1階</td> <td>0.5m~3m未満 (1階床上~軒下浸水)</td> </tr> <tr> <td>1階床下</td> <td>0.5m未満 (1階床下浸水)</td> </tr> </table>	3・4階	5m~10m未満 (3階床上浸水~4階軒下浸水)	2階	3m~5m未満 (2階床上~軒下浸水)	1階	0.5m~3m未満 (1階床上~軒下浸水)	1階床下	0.5m未満 (1階床下浸水)
3・4階	5m~10m未満 (3階床上浸水~4階軒下浸水)								
2階	3m~5m未満 (2階床上~軒下浸水)								
1階	0.5m~3m未満 (1階床上~軒下浸水)								
1階床下	0.5m未満 (1階床下浸水)								
<b>土砂災害</b>									
土砂災害警戒区域:	<table border="1"> <tr> <td>土石流</td> <td>急傾斜地</td> </tr> </table>	土石流	急傾斜地						
土石流	急傾斜地								
土砂災害特別警戒区域:	<table border="1"> <tr> <td>土石流</td> <td>急傾斜地</td> </tr> </table>	土石流	急傾斜地						
土石流	急傾斜地								

## ハザードマップの見方 ②

次の3つが確認できれば浸水の危険があっても自宅に留まり安全を確保することも可能です。(16ページ参照)

**① 家屋倒壊等氾濫想定区域に入っていないか**

流速が早いため、木造家屋は倒壊するおそれがあります

**② 浸水深より居室は高いか**

5m~10m未満 (3階床上浸水~4階軒下浸水)  
3m~5m未満 (2階床上~軒下浸水)  
0.5m~3m未満 (1階床上~軒下浸水)  
0.5m未満 (1階床下浸水)

**③ 水が引くまで我慢できるか、水・食糧などの備えは十分か**

水、食糧、薬等の確保が困難になるほか、電気、ガス、水道、トイレ等の使用ができなくなるおそれがあります。

※緊急時に身を寄せる避難先は、市の指定避難所や、安全な親戚・知人宅など様々です。普段からどこに避難するかを決めておきましょう。

## 目次

### はじめに・目次

ハザードマップの使い方・目的	..... P 1
過去の被害を忘れない	..... P 2・3
足利市被害実績マップ	..... P 4・5
浸水想定区域浸水継続時間	..... P 6・7

### 事前の備え

避難情報や防災情報の入手先	..... P 8
非常持出品・備蓄品	..... P 9

### 風水害

気象に関する情報	..... P 10
風水害から身を守る	..... P 11

### 土砂災害

土砂災害への備え	..... P 12・13
----------	---------------

### 避難

避難開始のタイミング	..... P 14
自分と家族の避難行動	..... P 15
避難の流れ	..... P 16
避難の注意点	..... P 17
水害時の防災行動イメージ	..... P 18・19

### 地震

地震発生時の行動	..... P 20
わが家の地震対策	..... P 21

### 地域防災

わが家と地域の防災対策	..... P 22・23
-------------	---------------

避難所一覧	..... P 24
-------	------------

### 防災関係機関

洪水・土砂災害ハザードマップ (全体図・地区別)



# 過去の水害を忘れない

## <カスリーン台風>

### ■ カスリーン台風とは

昭和 22(1947)年 9月 15日、敗戦の混乱から立ち直ろうとしている日本を、カスリーン台風が襲いました。マリアナ諸島東方海上で発生した台風は、次第に勢力を増しながら北上を続け、15日早朝に浜松沖を通過し、夜には房総半島南端をかすめて三陸沖に去っていきました。

台風そのものは本州に近づいた時にはすでに勢力を弱めつつありましたが、日本列島付近には前線が停滞しており、停滞前線に台風の湿った空気が流れ込んで、戦後の記録に残る大雨を降らせました。

### ■ カスリーン台風の被害状況

9月13日から3日間の雨量は渡良瀬川流域で400mm近くとなり、記録的な豪雨になりました。赤城山や足尾山地のあちこちで土砂崩れを起こし、流れ出た土砂は土石流となって下流の町を襲いました。

足利市内では、小俣地先、借宿地先、岩井地先等で堤防が決壊。特に岩井山の近くで堤防を突き破った濁流は、市街地を走り、住民が逃げる暇も与えず民家や工場を押し流しました。

渡良瀬川流域での被害は特にひどく、死者・行方不明者の数は利根川水系全体の約3分の2を占め、足利市でも多くの尊い命が失われました。

### ■ 足利市の被害※

死者	行方不明	家屋の被害				
		流出	全壊	半壊	床上浸水	床下浸水
252人	67人	372戸	328戸	257戸	11,976戸	5,773戸

※上記の記録がありますが、実際の被害は更に大きかったとも言われています。



商店街に氾濫した洪水の中を歩く人々(通2丁目)



市内の様子(郵便局保険分室前)



浸水した街中を歩く人々(市内)



浸水した街中を歩く人々(通2丁目)



浸水状況(通6丁目付近)

## <令和元年東日本台風>

### ■ 令和元年東日本台風とは

10月6日に南鳥島近海で発生した台風第19号は、マリアナ諸島を西に進みながら、7日には大型で猛烈な台風となりました。小笠原近海を北北西に進み、12日には北よりに進路を変え伊豆諸島北部を北北東に進みました。12日19時00分前に大型で強い勢力で伊豆半島に上陸した後、関東地方を通過し、13日12時00分に日本の東で温帯低気圧に変わりました。

東日本大震災を上回る過去最多の自治体で災害救助法が適用され、足利観測所では24時間の雨量としては1976年の統計開始以来最大となる253mmの大雨を記録するなど、カスリーン台風以来の大災害となったこの台風は、気象庁により「令和元年東日本台風」と命名されました。

### ■ 24時間雨量

観測所名	降雨量(mm)
足尾	425.0
津久原	353.0
足利	253.0
作原	377.0
松田	302.0

### ■ 令和元年東日本台風の被害状況

山地では、多数の土砂災害が発生し、住家にも危険が及びました。河川では、かつてないほどの水位上昇を記録し、市内の中小河川において複数箇所からの溢水、越水による浸水被害が発生しました。

台風に伴う大雨により、床上・床下浸水等の住家被害のほか、自動車の水没、農地の冠水、農業用施設の損傷、商工業施設への浸水、道路や河川その他の公共施設の損傷等が発生し、被害総額は88億円を超えました。

### ■ 市内の被害状況

人的被害		住家	非住家	崖(土砂)	道路	河川	橋梁	排水・用水	その他
死者	中等症								
1名	2名	845件	45件	51件	271件	69件	12件	116件	132件



春日橋付近の護岸洗掘(小俣町)



倒木が道路を塞いでいる様子(松田町)



台風が去った翌日の様子(大久保町、川崎町付近)



渡良瀬川中橋付近の増水

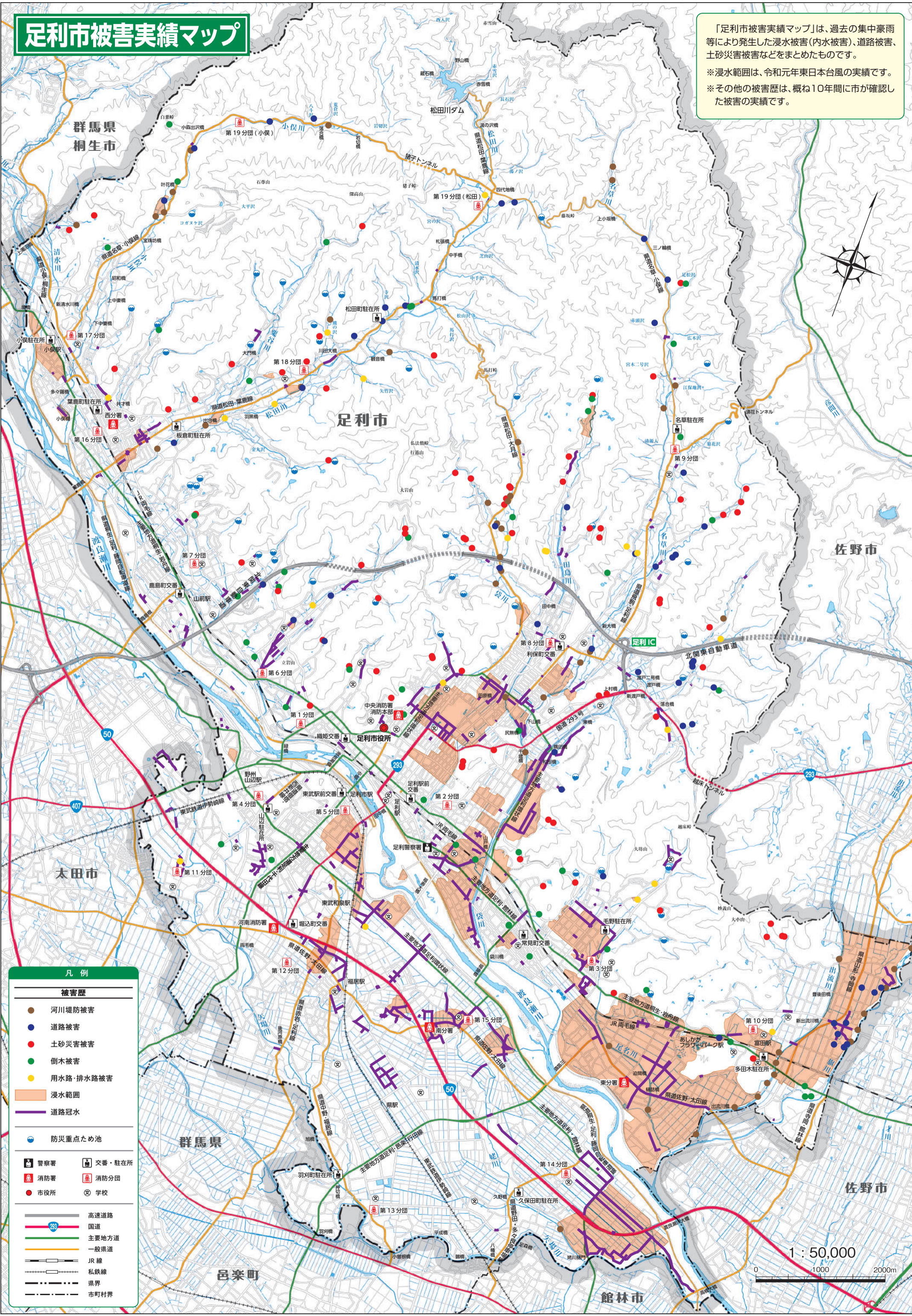


# 足利市被害実績マップ

「足利市被害実績マップ」は、過去の集中豪雨等により発生した浸水被害(内水被害)、道路被害、土砂災害被害などをまとめたものです。

※浸水範囲は、令和元年東日本台風の実績です。

※その他の被害歴は、概ね10年間に市が確認した被害の実績です。



**凡例**

被害歴	
●	河川堤防被害
●	道路被害
●	土砂災害被害
●	倒木被害
●	用水路・排水路被害
■	浸水範囲
—	道路冠水
●	防災重点ため池
🚓	警察署
🚒	消防署
🏠	市役所
🚏	交番・駐在所
🚒	消防分団
🎓	学校
—	高速道路
—	国道
—	主要地方道
—	一般県道
—	JR線
—	私鉄線
—	県界
—	市町村界

1 : 50,000

0 1000 2000m



# 洪水浸水想定区域 浸水継続時間

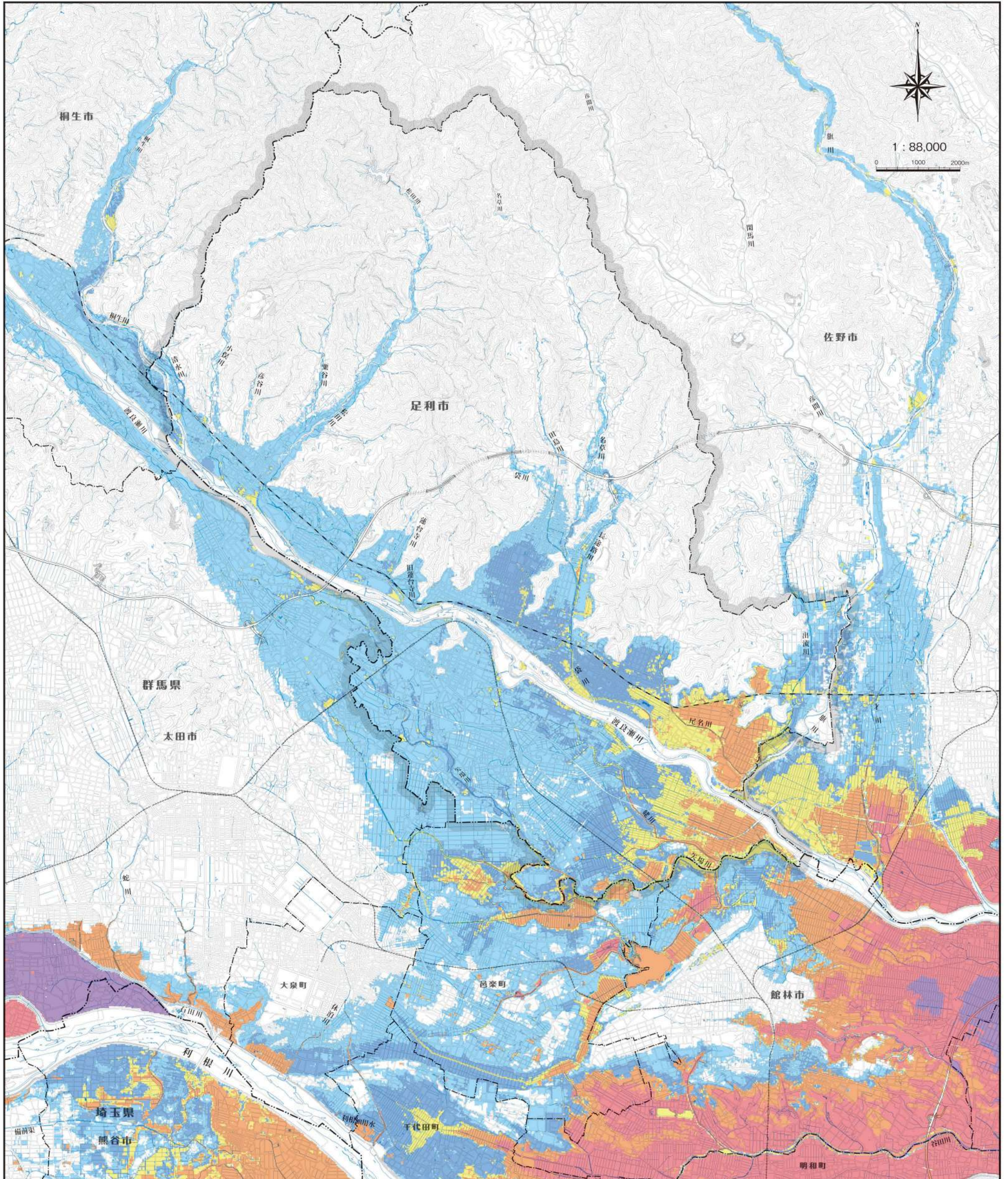
## 凡例

### 浸水継続時間

- |   |   |
|---|---|
|  ~12時間未満           |  72時間~168時間未満 (1週間)  |
|  12時間~24時間未満 (1日間) |  168時間~336時間未満 (2週間) |
|  24時間~72時間未満 (3日間) |  336時間~672時間未満 (4週間) |

この図は、ハザードマップで示している洪水浸水想定区域における浸水の深さが、50cmに達してから50cmを下回るまでの時間（最大値）を表したものです。  
浸水深と合わせ、避難行動を検討する場合の参考にしてください。

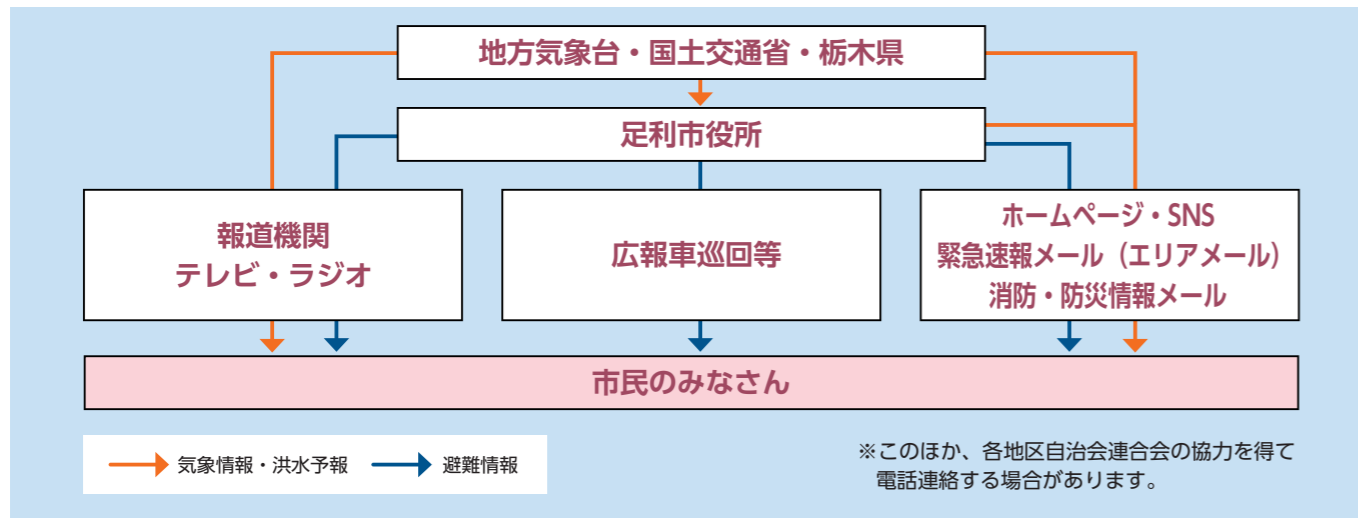
対象河川(50首順)：粟谷川・出流川・姥川・尾名川・小俣川・旧蓮台寺川・桐生川・清水川・田島川・利根川・長途路川・名草川・旗川・彦谷川・袋川・松田川・矢場川・蓮台寺川・渡良瀬川





# 避難情報や防災情報の入手先

## 避難情報等の伝達経路



## 市が発信する情報

### 足利市公式ホームページ

「足利市」で検索



### 足利市公式Twitter

「足利市 ツイッター」で検索  
@ashikaga-city



### 足利市公式Facebook

「足利市 フェイスブック」  
で検索



### 今すぐ登録!

**消防・防災情報メール**  
防災に関する最新情報を随時配信します。



### Yahoo! 防災速報

スマートフォン用「Yahoo! 防災速報」をインストールし、アプリ内で足利市を地点登録している方に各種情報(避難、ライフライン、災害時の注意喚起など)が配信されます。



### 緊急速報メール (エリアメール)

事前登録は不要。市内にいる方の携帯電話、スマートフォンに、避難情報が一斉配信されます。

※一部対応していない機種があります。(販売店で確認してください。)



## 気象・河川・土砂災害に関する情報提供

### 気象庁

気象警報・注意報や大雨・洪水警報の危険度分布などを掲載。



### 国土交通省 川の防災情報

河川の水位やライブカメラ映像などを掲載。



### 栃木県 とちぎリアルタイム雨量 河川水位観測情報

県内河川の水位や雨量情報などを掲載。



### 地点別浸水シミュレーション検索システム(浸水ナビ)

河川が決壊(破堤)した場合の地点別浸水シミュレーションを掲載。



### 栃木県 とちぎ土砂災害警戒情報

土砂災害警戒情報の発表状況を掲載。



### NHK防災・減災情報

気象情報や避難情報を掲載。



# 非常持出品・備蓄品

日頃から非常持出品や備蓄品を備えておきましょう。

## 非常持出品の例

区分	アイテム	チェック	区分	アイテム	チェック
貴重品類	現金 (10円硬貨などの小銭を含む)		救急用品・感染症対策用品	救急箱	
	預金通帳、印鑑			お薬手帳・処方箋の控え	
	マイナンバーカード			胃腸薬・便秘薬・持病の薬	
	運転免許証、健康保険証			生理用品	
懐中電灯		マスク・体温計・消毒液			
避難用具	携帯ラジオ		非常食品	乾パン	
	予備の乾電池			缶詰	
	ヘルメット・防災ずきん			栄養補助食品	
生活用品	厚手の手袋			アメ・チョコレート	
	毛布		飲料水		
	缶切り		衣料品	下着・靴下	
	ライター・マッチ			長袖・長ズボン	
	ナイフ			防寒用ジャケット・雨具	
	携帯トイレ		各自記載用		
	筆記用具				
	携帯用カイロ				

※非常持出品はリュックなどに入れ、玄関など持ち出しやすい場所に準備しておきましょう。  
※自分や家族にとって必要な物は何かを考えて準備しましょう。

## 備蓄品の例

区分	アイテム	チェック	区分	アイテム	チェック
食料品	レトルト食品(ごはん・おかゆなど)・アルファ米		生活用品	ビニール袋	
	インスタントラーメン・カップみそ汁			ロープ	
	飲料水(目安はひとり1日3ℓ)			工具セット	
生活用品	給水用ポリタンク			ほうき・ちりとり	
	カセットコンロ・予備のボンベ			LEDランタン	
	ティッシュペーパー・ウェットティッシュ		長靴		
	ラップフィルム		各自記載用		
	紙皿・紙コップ・割り箸				
	簡易トイレ				
	水のいらないシャンプー				

※備蓄品は最低3日分、できれば1週間分を準備しておきましょう。  
※災害後に取りに行けるように、倉庫や車のトランクなどに分けて備蓄しておくとう便利です。

## ローリングストック

ローリングストックとは、日常で消費する食材を少し多めに買い置きし、定期的に古いものから消費し、消費分を買い足していく備蓄方法です。食べながら備えるため、消費期限の短いレトルト食品なども非常食として扱えます。

ローリングストックでは、被災時でも普段から食べ慣れているものが食卓に並ぶため、安心して食事をとることができます。

## 雨の強さと降り方

降っている雨を観察することで、おおよその雨量を知ることができます。危険な状態になる前に自分で判断して避難ができるよう、雨の降り方と雨量の関係を知っておきましょう。

1時間雨量(mm) 予報用語	10~20mm やや強い雨 ザーザーと降る。地面からの跳ね返りで足元がぬれる。	20~30mm 強い雨 どしゃ降り。傘をさしていてもぬれる。	30~50mm 激しい雨 バケツをひっくり返したように降る。	50~80mm 非常に激しい雨 滝のように降る(ゴーゴーと降り続く)。傘は全く役に立たなくなる。	80mm以上 猛烈な雨 息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じる。
-------------------	---	--------------------------------------	--------------------------------------	--	---

## 集中豪雨

集中豪雨とは、同じような場所で数時間にわたり激しい雨が降り、100mmから数百mmの総雨量をもたらす大雨です。積乱雲が同じ場所で次々と発生・発達を繰り返すことによって引き起こされます。

集中豪雨は、中小河川の氾濫や土砂崩れ、崖崩れなどの大きな災害の発生につながることがあります。

## 竜巻・激しい突風

竜巻など突風は、狭い範囲で突発的に発生することが多いため、大雨などよりも発生の予測が難しいとされています。

竜巻は積乱雲が発達すると発生する可能性が高まるため、空模様の変化を感じたら竜巻注意情報を確認しましょう。そして、竜巻注意情報の発表から約1時間は注意を続けてください。

なお、竜巻のほかにも激しい突風をもたらす現象として、ダウンバースト、ガストフロントなどがあります。



## 前兆現象

### <積乱雲の前兆現象>

黒い雲が近づき、周囲が急に暗くなる。  
雷鳴が聞こえたり、雷光が見えたりする。  
ヒヤッとした冷たい空気が噴出する。  
大量の雨やひょうが降り出す。

### <竜巻の前兆現象>

雲の底から地上に伸びる漏斗状の雲が見える。  
飛散物が筒状に舞上がる。  
いつもと違う「ゴー」という音がする。  
気圧の変化で耳に異常を感じる。

## 竜巻からの避難行動

### <屋外>

頑丈な建物の中に避難する。物置や車庫、プレハブの中は危険。  
頑丈な構造物の物陰に入って、身を小さくする。  
建物内への避難が間に合わない場合は、物陰やくぼみに身を伏せる。

### <屋内>

家の1階で中心部に近い、窓のない部屋に移動する。  
雨戸、窓を閉めてカーテンを引く。  
頑丈な机の下に入り、頭と首を守る。

## 要配慮者利用施設について

「洪水浸水想定区域」、「土砂災害警戒区域」に位置している要配慮者利用施設(※)では、避難確保計画の作成が義務付けられています。

※地域防災計画に位置付けられている施設が対象  
「足利市 要配慮者利用施設」で検索



## ハザードマップのデータについて

今回のハザードマップに使用している洪水浸水想定区域図等のデータを河川ごとに確認したい場合は、こちらからご確認ください。

「足利市 洪水浸水想定区域図」で検索



## 洪水災害

### 水害

水害とは、水によって引き起こされる災害のことです。氾濫(外水氾濫、内水氾濫)も水害と呼ばれます。



### 洪水

洪水とは、大雨などにより川の水量が普段よりも著しく増えた状態をいいます。

通常時に河原へ行くと広い敷地のわりに中心部しか水が流れていませんが、川幅いっぱい水が押し寄せると、広い河原も水の下に隠れて見えません。このような異常に水量が増えたときを「洪水」といいます。

### 氾濫

氾濫とは、雨などにより住宅地や農地などに水が溢れることをいいます。

川から水が溢れることを「外水氾濫」といいます。川から水が溢れるのではなく、住宅地や農地などに降った雨がそのまま溜まって溢れることを「内水氾濫」といいます。

### <外水氾濫の種類>

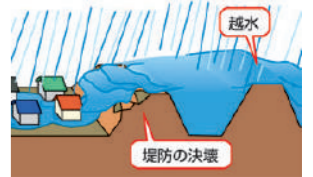
#### 破堤

洪水や降雨などの外力に対して、堤防が耐えられなくなって崩れる現象です。



#### 越水

降雨によって河川の水量が増加し、堤防から水が溢れる現象です。



## 風水害への備え

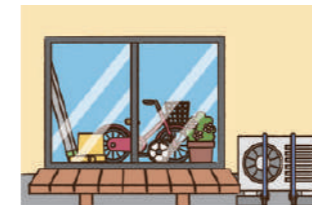
### <側溝や雨水ますの清掃>

側溝や雨水ますと集水口を掃除し、雨水がスムーズに流れるようにしましょう。  
側溝などの上に物を置かないようにしましょう。



### <屋外の対策>

物干し竿や鉢植えなどは家の中にしまおうか、しっかりと固定しましょう。  
プロパンガスボンベやエアコンの室外機などは、しっかりと固定しましょう。



### <屋内への浸水防止>

出入口などに止水板や土のうを置いて、水が入り込まないようにしましょう。  
トイレや浴室、洗濯機などの排水口の上に水のうを置き、下水の逆流を防ぎましょう。  
浴槽の水は流さずに溜めておきましょう。下水の逆流が防げるほか、生活用水として利用できます。



### <浄化槽の確認>

土砂や泥の流入を防ぐため、浄化槽の蓋が閉まっているか確認しましょう。  
浄化槽のプロアー(ポンプ)の電源を落とし、高い場所に移動させましょう。



### <車の移動>

駐車場が低地や地下にある場合は、車を高台などの安全な場所に移動させましょう。



### <窓の対策>

飛来物による破損から守るために雨戸を閉めましょう。雨戸がない窓にはガラス貫通防止用フィルムなどを貼りましょう。



### <屋内の対策>

万が一の浸水に備えて、家財道具や大事なものを上階や高くて安全な場所に移動させましょう。





## 土砂災害警戒区域の指定について

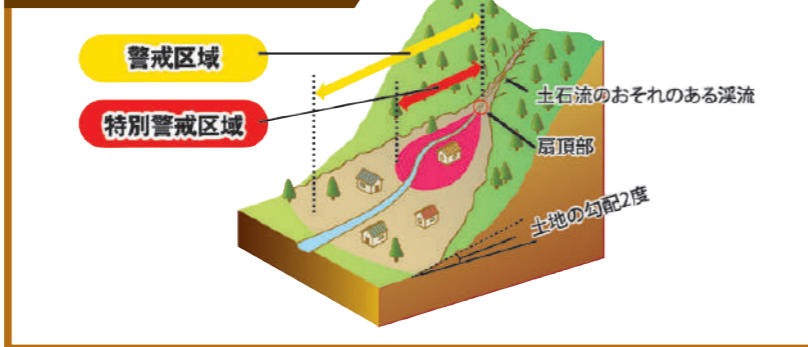
土砂災害警戒区域等の指定は、土砂災害（土石流・急傾斜地の崩壊・地すべり）のおそれがある区域について危険の周知、警戒避難体制の整備等のソフト対策を推進しようとするものです。栃木県では土砂災害のおそれのある区域について「土砂災害警戒区域」と「土砂災害特別警戒区域」の指定、公表を行っています。

なお、足利市においては、「地すべり」の土砂災害警戒区域等は指定されていません。

### 土砂災害警戒区域

急傾斜地崩壊や土石流が発生した場合に、住民等の生命又は身体に危害が生じるおそれがあると認められる区域です。

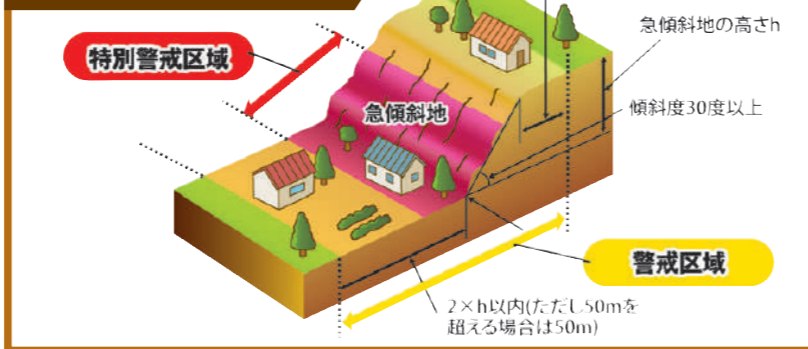
### 土石流の場合



### 土砂災害特別警戒区域

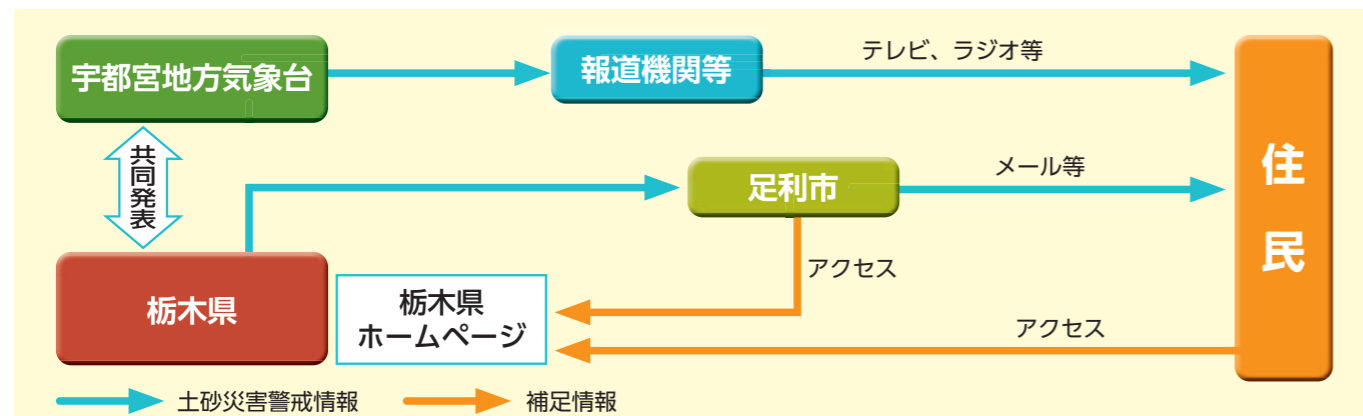
急傾斜地崩壊や土石流が発生した場合に、建築物に損壊が生じ住民等の生命又は身体に著しい危害が生じるおそれがあると認められる区域で、特定の開発行為に対する許可制や、建築物の構造規制が行われます。

### 急傾斜地の崩壊の場合



## 土砂災害警戒情報とは

土砂災害警戒情報は、大雨による土砂災害発生の危険度が高まった時、市長が避難指示等を発令する際の判断や住民の自主避難の参考となるよう、栃木県と気象庁が共同で発表する防災情報です。土砂災害警戒情報は、大雨警報発表後、**更に土砂災害発生の危険度が高まった時に**、発表されます。**いつ土砂災害がおきてもおかしくない、非常に危険な状態です。早急に避難しましょう。**



## 土砂災害の予兆現象

土砂災害とは、地震や大雨などにより、山やがけが崩れたり、水と混じり合った土や石が川から流れ出たりするなど、私たちの命や財産に被害が生じる災害です。主なものに「土石流」「がけ崩れ」「地すべり」などがあります。

土石流とは	<p>山腹や川底の石、土砂が長雨や集中豪雨などによって一気に下流へと押し流される現象です。時速 20~40km という速度で一瞬のうちに人家や畑などを壊滅させてしまいます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●いつも流れている沢の水が濁ったり、生の木が流れてくる。</li> <li>●沢の奥の方で、ゴロゴロという音がする。</li> <li>●雨が降り続けているのに、沢の水がいつもより減っている。(沢の上流で崩れた土砂が沢水をせき止めているため。)</li> <li>●山鳴りや地鳴りがする。(山の奥で崩れているため)</li> </ul>
(急傾斜地の崩壊) がけ崩れとは	<p>斜面の地表に近い部分が、雨水の浸透や地震等でゆるみ、突然、崩れ落ちる現象です。崩れ始めてから、崩れ落ちるまでの時間がごく短く、人家の近くで起きると逃げ遅れる人も多く、人命を奪うことの多い災害です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●がけから小石がバラバラと落ちてくる。</li> <li>●樹木がゆれたり、傾いたりする。</li> <li>●がけから水がわき出ている。</li> <li>●がけに割れ目、ひび割れができる。</li> </ul>
地すべりとは	<p>斜面の一部あるいは全部が地下水の影響と重力によってゆっくりと斜面下方に移動する現象のことをいいます。一般的に移動する土壌量が大きいため、甚大な被害を及ぼします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●山鳴りや地鳴りがある。</li> <li>●木の裂ける音や木の根が切れる音がする。</li> <li>●地面に割れ目、ひび割れができる。</li> <li>●沢の水や池の水が濁る。井戸をお使いの場合は井戸水が濁るなど。</li> </ul>

※予兆現象が見られた場合には、早めに安全な場所に避難しましょう。

## 土砂災害から身を守るために

### 住んでいる場所が、土砂災害警戒区域かどうか確認する

土砂災害発生のおそれがある地域は、「土砂災害警戒区域」に指定されています。自分の家が土砂災害警戒区域にあるかどうかを地図で確認しましょう。

\*土砂災害警戒区域でなくても、付近に「がけ地」や「小さな沢」などがあれば注意してください。  
\*土砂災害により、孤立化するおそれのある場合は家庭での備蓄を心がけましょう。

### 雨が降り出したら土砂災害警戒情報に注意する

大雨による土砂災害発生の危険度が高まった時には「土砂災害警戒情報」が発表されます。雨が降り出したら、土砂災害警戒情報に注意しましょう。

「とちぎ土砂災害警戒情報」(8ページ参照)では、地域ごとの土砂災害の危険度が確認できるので活用しましょう。

### 土砂災害警戒情報が発表されたら早めに避難する

がけ下や渓流沿いなどに住んでいる方は、土砂災害警戒情報が発表されたら早めに近くの避難所などの安全な場所に避難しましょう。また、土砂災害の多くは木造1階で被災しています。豪雨などでどうしても避難所への避難が困難なときは、近くの頑丈な建物の2階以上に緊急避難し、それも難しい場合は家中でより安全な場所(例えば、がけから離れた部屋や2階)に避難しましょう。



## 自主避難（自己判断による避難）

いつもと違う天気や川の様子など、危険な状況を感じたときは、早めに安全な場所（親戚や知人宅など）へ自主的に避難を開始してください。

### 例えばこんなとき…

- 大型の台風が接近、大雨が予想
- 夜に雨が降り続く
- 川の様子がいつもと違う



### 避難時の服装について

ヘルメットや防災頭巾などで頭を保護

荷物は少なく、非常持ち出し品は両手が空くリュックがオススメ

軍手や革手袋などで手を保護

ひもで締められる底の厚い運動靴など履き慣れたものが良い  
※長靴は、水が入ると足を取られる危険性があるので注意

長袖、長ズボンで

## 避難情報に基づく避難

災害による被害が発生するおそれがあり、住民への危険が迫ったときには、市は状況に応じた避難情報を発令します。避難情報が発令されたら、速やかに避難を始めてください。

警戒レベル3 高齢者等避難	<p>⚠ <b>災害のおそれあり</b></p> <p>危険な場所から高齢者等は避難</p>
警戒レベル4 避難指示	<p>⚠ <b>災害のおそれ高い</b></p> <p>危険な場所から全員避難</p>
~~~~~警戒レベル4までに必ず避難！~~~~~	
警戒レベル5 緊急安全確保	<p>⚠ <b>災害発生または切迫</b></p> <p>命の危険 直ちに安全確保！</p>

## 立ち退き避難（水平避難）

とにかく早めに、できるだけ遠くへ



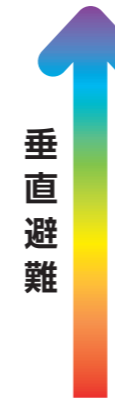
### 水平避難

立ち退き避難とは、洪水や土砂災害から身を守るために、災害リスクのある場所から、安全な場所に移動することです。

- 市の指定避難所などに避難しましょう。
- 安全な場所に住む親戚・知人宅、ホテル・旅館などに避難しましょう。



## 屋内安全確保（垂直避難）



垂直避難

屋内安全確保とは、今いる建物内で安全を確保できるときに、その場に留まることです。ハザードマップで浸水深、家屋倒壊等氾濫想定区域、土砂災害警戒区域等を確認し、身の安全を確保できるか確認しましょう。

- 自宅・施設等の安全な上階へ移動しましょう。
- 孤立に備えて備蓄等を準備しましょう。
- ※土砂災害の危険がある地域では立ち退き避難が原則です。



## 緊急安全確保

既に周辺で災害が発生している場合で、立ち退き避難が困難となったときなどは、いのちを守る最善の行動をとります。

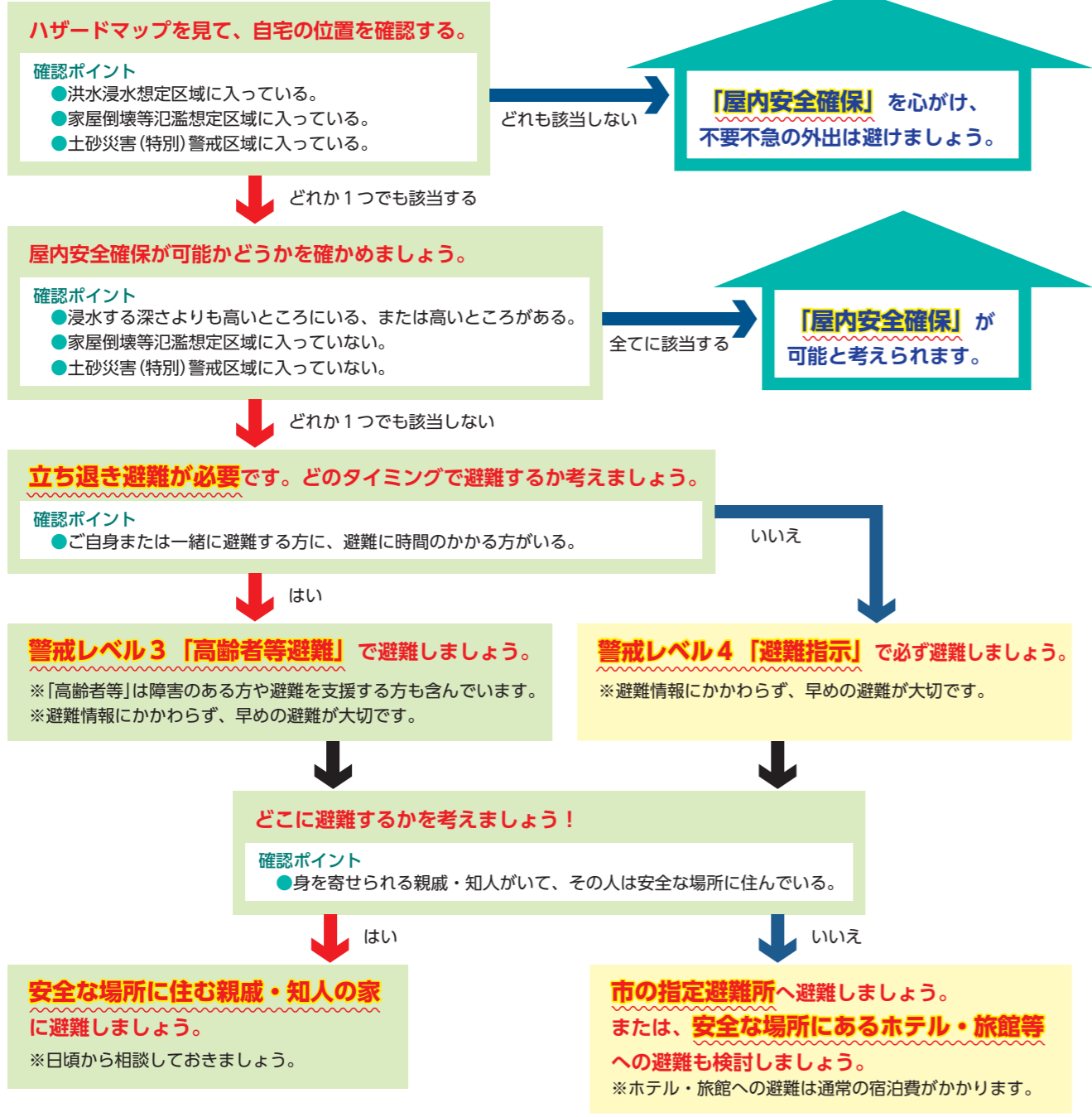
- 自宅の少しでも高い場所へ移動しましょう。
- 崖から離れた部屋に移動しましょう。
- 近隣の少しでも高い（頑丈な）建物に移動しましょう。
- 命の危険性を感じたら119番通報しましょう。





洪水、土砂災害が発生する前にハザードマップを確認して、以下のフロー図をもとに自分がとるべき避難行動を確認しておきましょう。

※過去に浸水した経験がある場合や、河川の近くや土砂災害が心配な場所にお住まいの場合は、このフロー図にかかわらず状況に応じた避難行動をとるようにしましょう。



## 逃げ遅れた場合は「緊急安全確保」

既に周辺で災害が発生している場合で、立ち退き避難が困難なときなどは、屋内や近隣の「より安全な場所」への移動など、命を守る最善の行動をとります。命の危険性を感じたら119番通報をして救助を要請してください。

## 立ち退き避難の注意点とリスク

### 自主的に行動する

- 最新の気象情報や避難情報を積極的に確認しましょう。(8ページ参照)
- 危険を感じたら、避難情報の発令を待たずに自主的に避難を開始！
- 近所に高齢者など避難行動に時間のかかる要配慮者がいる場合は、声をかけて一緒に避難しましょう。
- 知人宅などに避難するときは、公共交通機関が動いているうちに、早めの避難を心がけましょう。



市が開設する指定避難所は不特定多数の人が集まるため、プライバシーが制限され、感染症のリスクも高くなります。より安心な避難のために、安全な場所にある知人や親戚宅、ホテルなどへの宿泊を含め、平時から避難先を検討・相談しておきましょう。

### 行動と服装

- 単独行動は厳禁
- 動きやすい服で避難を。
- 非常持ち出し品を忘れずに。
- 長靴は水中で足を取られて危険です。運動靴を履きましょう。



### 家を出る前にチェック！

- ガスの元栓を閉めましたか？
- 電気ブレーカーを切りましたか？
- 避難することを親戚や知人に連絡しましたか？



### 安全な避難経路と避難先

- 避難所までの安全な避難経路を家族会議などで複数確認しておきましょう。
- 近道でも、川沿いや土砂災害(特別)警戒区域などの危険な場所は迂回しましょう。



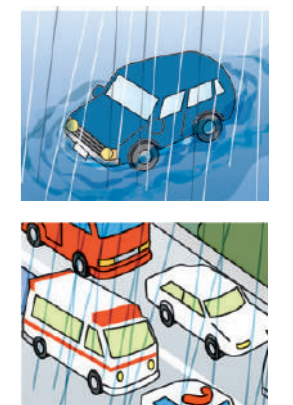
### 歩く際の注意点

- 人が歩ける水深は成人男性で40~50cm程度。流れが速い場合は浅くても危険です。
- 長い棒や傘を杖代わりにして、側溝やマンホールの蓋が外れていないか確認して歩きましょう。



### 危険な状況では車で避難しない

- 冠水した道路では車が動かなくなります。また水深が増すと車ごと流される危険もあります。
- 車での避難は緊急自動車の通行の妨げや交通渋滞に巻き込まれて逃げ遅れる危険があります。
- 病人や要配慮者などを避難させる特別な場合を除いて、車での避難はできるだけ避けましょう。



## 屋内安全確保の注意点とリスク

### 注意点

- 家の中心部に近い窓のない部屋や、家の上階で、がけなどの危険な場所の反対側の部屋に移動しましょう。
- 窓、雨戸、カーテンを閉めましょう。
- 鉢植えや自転車など、家の外の飛ばされそうなものや、流されそうなものを屋内に入れましょう。ただし、身に危険が迫っている場合は、安全な場所への避難を優先させましょう。



### リスク

- 大雨時には湿度も高く衛生状況が悪くなる可能性があります。
- 電気や水道が使えなくなる可能性があります。
- すぐには救助が来ない可能性があります。
- 食料や医薬品などの調達ができません。







## 地震発生時の対処と避難行動

**地震発生**

1~2分

3分

10分

30分  
数時間  
3日

### 最初の大きな揺れは約1分!

- 身の安全を確保!
  - ・落ちてくる机の下などに隠れて身を守りましょう。
  - ・以降、余震の発生に備えましょう。

緊急地震速報が受信できるように、テレビ・ラジオ、携帯電話・スマートフォンなどを身近に用意しておきましょう。

### 揺れがおさまったら

- 火元の確認
  - ・出火していたら初期消火。周囲に大声で「火事だ!」と伝えましょう。
- 同居家族の安否確認
  - ・倒れた家具などの下敷きになっていないか確認しましょう。
- 足を守る
  - ・靴や厚手のスリッパを履いて、ガラスの破片などから足を守りましょう。



### 安否を確認・火災発生を防止

- 自宅の周囲の安全を確認
  - ・近所の人と協力し、怪我人や行方不明者がいないか確認しましょう。火災が発生していたら初期消火を行います。
  - ・要配慮者を安全な場所に移動させましょう。
  - ・漏電やガス漏れがないか確認する。電気のブレーカーをおろし、ガスの元栓を閉めましょう。



### 正しい情報を入手する

- テレビ・ラジオで情報を確認
  - ・防災機関や自主防災組織などから、正しい情報を入手しましょう。
  - ・デマに惑わされないように注意しましょう。
  - ・電話は緊急連絡を優先します。SNSなども活用しましょう。



### 消火・救出・救護活動に協力する

- 被害がなければ共助に参加
  - ・自分や家族などに被害がなければ、困っている人の手助けを行います。
  - ・自分にできる消火・救出・救護などに参加しましょう。

### 被害や危険があれば避難する

- 危険な場所から避難する
  - ・家屋倒壊のおそれがある、がけ崩れの危険がある地域にいる、などの場合は指定避難所へ避難します。

## 地震発生時の対処 (場所別)

### 屋内の場合

#### <集合住宅>

玄関から避難できない場合は、ベランダから避難はしごやロープで脱出しましょう。エレベーターは使用しません。

#### <デパート・スーパー>

柱や壁際に身を寄せて、手荷物やカゴなどで頭を守りましょう。商品の落下やショーケースの転倒、ガラスの破片に注意しましょう。店員の指示に従って行動しましょう。

#### <エレベーター内>

すべての階のボタンを押し、最初に停止した階で降りましょう。閉じ込められた場合は、非常用ボタンやインターフォンで連絡をとって救出を待ちましょう。

### 屋外の場合

#### <路上>

窓ガラスや看板などの落下物から、手荷物などで頭を守りましょう。公園や空き地に避難しましょう。自動販売機やブロック塀などには近づきません。

#### <車の運転中>

徐々にスピードを落として道路の左側に停車しましょう。車から離れるときは貴重品と車検証を持ち、キーをつけたままにしましょう。ドアもロックしません。

#### <電車・バスの車内>

両手でしっかりと、つり革や手すりにつかまりましょう。座っているときは、足を踏ん張って上体を前かがみにしましょう。

## 家の中の安全対策

### ①食器棚

- 扉が開かないように金具をつけ、内部には、すべり止めをつけて、中の食器が飛び出さないようにする。
- なるべく壁に接近させ、上部をL字金具やつっぱり棒で固定する。

### ②照明器具

- 1本のコードでつるすタイプのもは、鎖と金具で数カ所留める。

### ③火災予防

- 火災警報器や感震ブレーカー、消火器等を用意する。



### ④テレビ

- できるだけ低い位置に置き、金具やロープ、装着マットなどで固定する。

### ⑤スリッパ

- ガラス片等によるけがを防ぐため、厚手のスリッパ等の室内履きを用意する。

### ⑥暖房器具

- ストーブなどの暖房器具は、対震自動消火機能のあるものにする。

### ⑦窓ガラス

- ガラス全面に飛散防止フィルムを室内側に貼る。

### ⑧カーテン

- カーテンは防災加工されたものを使う。

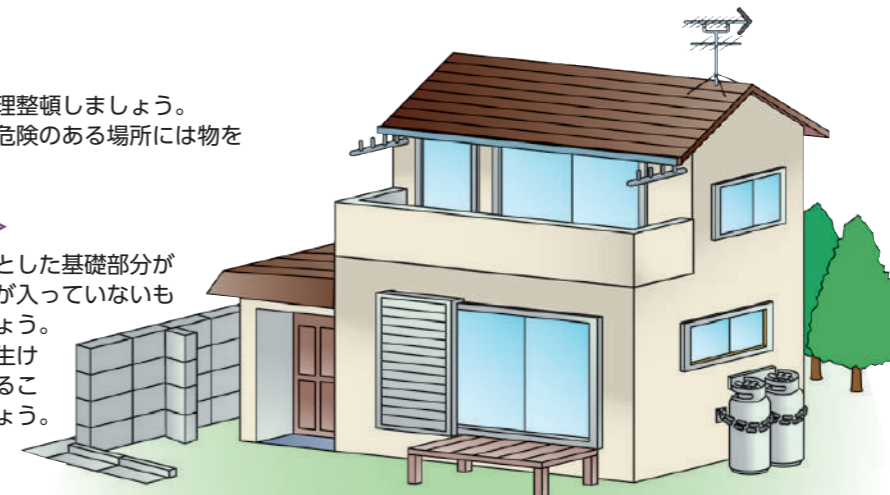
## 家の周囲の安全対策

### <ベランダ>

鉢植えなどは整理整頓しましょう。階下に落下する危険のある場所には物を置けません。

### <ブロック塀>

土中にしっかりと基礎部分がないもの、鉄筋が入っていないものは補強しましょう。ブロック塀から生け垣などに変更することを検討しましょう。



### <屋根>

アンテナや屋根瓦を補強しましょう。

### <窓ガラス>

ガラス貫通防止用フィルムなどを貼りましょう。

### <プロパンガス>

プロパンガスボンベはしっかりと固定しましょう。



## 火災対策

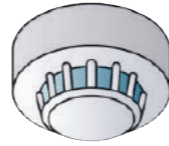
### 日頃の安全対策

#### <火災を防ぐポイント>

家の周囲に燃えやすいものを置きません。  
火がついているコンロから離れるときは、必ず火を消しましょう。  
たこ足配線をせず、コンセントまわりを定期的に掃除しましょう。  
カーテンなどは防災品を使用しましょう。

#### <住宅用火災警報器>

住宅用火災警報器の設置は義務付けられています。  
基本的な設置場所は、寝室と寝室がある階の階段上部(1階の階段は除く)ですが、他の場所にも設置が必要になる場合があります。



### 初期消火の3原則

#### <① 早く知らせる>

「火事だ!」と大声で隣近所に知らせます。  
声が出ない場合は、鍋など音の出るものを叩くなどして、異変を知らせましょう。  
小さな火事でも119番に通報します。

#### <② 早く消火する>

火元の近くに消火器を常備しましょう。  
油鍋やストーブからの出火で消火器がない場合は、濡らしたシーツや毛布を手前からかぶせて空気を遮断しましょう。

#### <③ 早く逃げる>

天井に火が燃え移ったら消火は困難。無理をせずに避難します。  
可能であれば、避難するときに燃えている部屋の窓やドアを閉めて空気を遮断しましょう。

### 消火器の使い方

- ①安全ピンに指をかけ、ピンを上引き抜きます。
  - ②ホースを外して火元に向けます。
  - ③レバーを強く握り、火の根元を掃くように噴射します。
- ※消火器を使用すると、消火剤が充満して何も見えなくなるので、出口を確認してから使用しましょう。



### 避難時の注意点

煙を吸い込まないように、ハンカチなどで口を覆い、姿勢を低くします。服装や持ち物にこだわらず、できるだけ素早く避難します。  
いったん逃げ出したら、再び中には戻りません。

## 自主防災組織の活動

大規模な災害が発生したときは、消防などの防災機関が十分に対応できないことがあります。  
自主防災組織は、「自分たちの地域は自分たちで守る」という意識を持って、地域の人々が自発的に防災活動を行う組織です。  
足利市では「自主防災会」と呼んでおり、市内の全自治会に結成されています。

#### <平常時の活動>

防災知識の普及・啓発を行います。  
地域内の危険箇所や問題点を把握します。  
防災訓練を実施し、防災活動に必要な知識・技術を習得します。  
防災資器材を準備し、定期的に点検します。  
地域連絡網を構築(再構築)し、情報伝達できるように努めます。

#### <災害時の活動>

出火防止や初期消火活動を行います。  
避難誘導や救出・救護活動を行います。  
公的機関と連絡を取り、住民に正しい情報を伝えます。  
避難所の自主的な運営をサポートします。

## 要配慮者への対応

要配慮者とは、避難する際に周囲の手助けを必要とする人たちのことです。  
要配慮者の対象となるのは、高齢者、乳幼児、病気や障がいのある人、妊産婦、外国人などです。

#### <平常時の活動>

日頃からコミュニケーションをとることで、災害時に円滑な支援活動が行えます。  
要配慮者の立場になって、地域内の避難環境を見直しましょう。

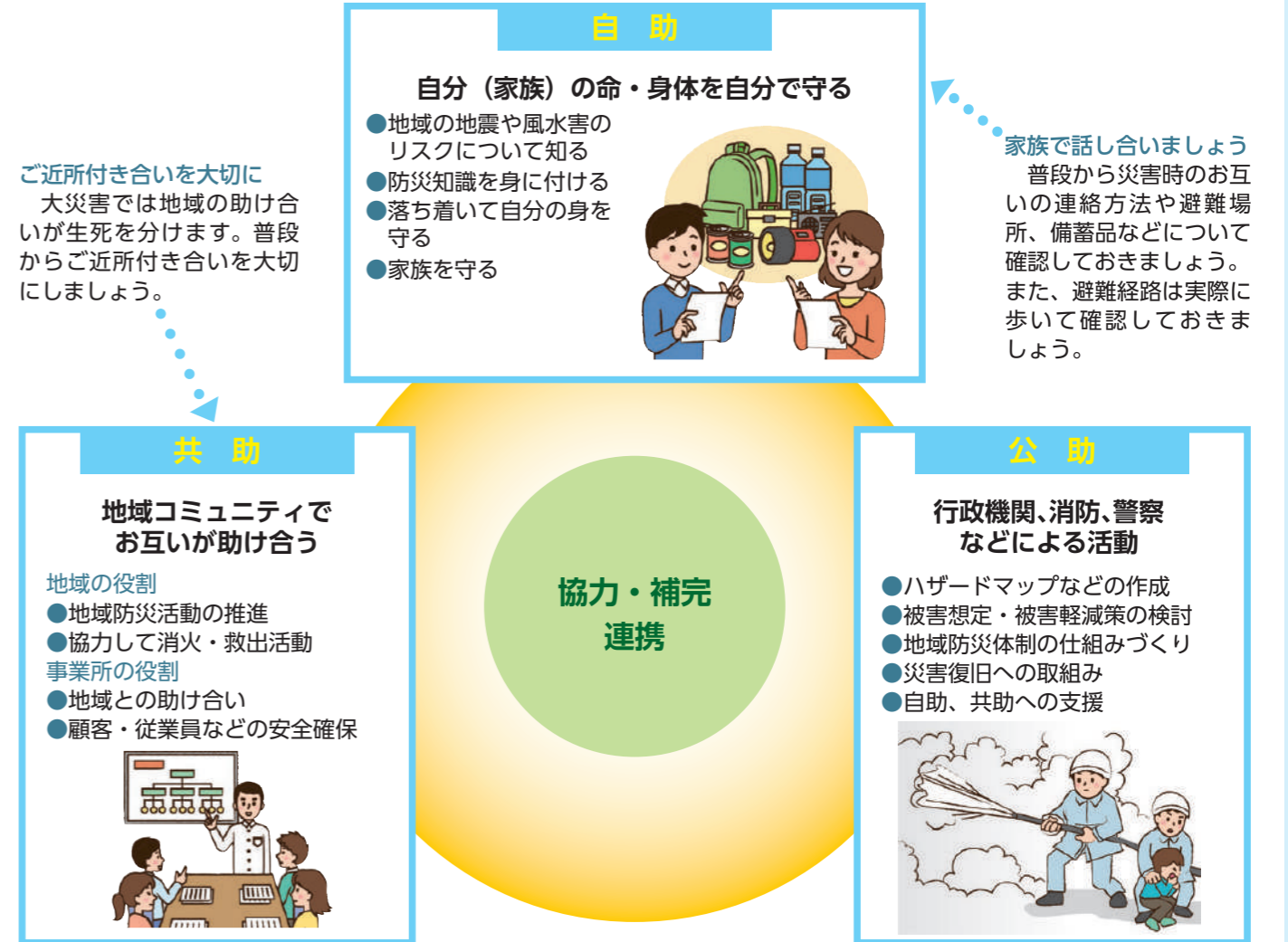
#### <災害時の活動>

自分の身体を守ることが難しい要配慮者には、周囲の人と助け合いながら避難誘導を行きましょう。  
筆談や身振り手振りなど、相手にあわせて情報を伝えましょう。



## 自助・共助・公助

大規模な災害が発生した際には、全ての現場に公的機関が迅速に救助に駆けつけることは難しいと考えられています。過去の災害の教訓からも、被災したらまず自分で自分の命を守り(自助)、その後地域の人たちと助け合いながら被害を軽減し(共助)、行政機関・消防・警察などの支援(公助)を待つことが望ましいです。



## わが家の災害対策<自助>について考えましょう

お住まいの地域や家族構成など、人によって事情や災害リスクは様々であり、必要な備えは異なります。家族で話し合っ、自分たちの事情に合った災害対策を考えましょう。  
考えた災害対策は、状況が変わったら再検討しましょう。

### 災害対策の流れ

- 1 地震や風水害時に、自宅や家族、地域にどのような危険性があるかを把握する。
- 2 自分の危険性に応じて必要となる備えを検討する。
- 3 対策をすぐに実践する。
- 4 状況が変化したら、対策を再検討する。



# 避難所一覧

日頃から避難する避難所の場所を調べておきましょう。

## ●指定避難所とは？

長時間にわたって安全性の確保が可能で、多人数が避難でき、最小限の生活を維持することを目的とした避難所です。  
市内の小・中学校など37カ所を指定しています。

## ●広域避難場所とは？

地震などに伴う火災や、その延焼拡大によって生じる放射熱・熱気流から、市民の安全を確保する場所のことです。  
足利市では6カ所を指定しています。

## ●車中避難場所とは？

洪水のおそれがある場合に緊急的・一時的に難を避けることを目的とし、車両ごと避難できる避難場所です。

種別	施設・場所名	住所
指定避難所 ※1	けやき小学校	柳原町861
	とうこう コミュニティセンター	伊勢町3-7-5
	さいこう ふれあいセンター	西宮町2838
	第一中学校(体育館)	西宮町3045
	第二中学校	本城1-1472
	青葉小学校	大橋町1-2007-1
	生涯学習センター	相生町1-1
	東山小学校	助戸仲町806
	第三中学校	常盤町67
	桜小学校	千歳町89
	毛野南小学校	常見町1-4
	毛野中学校	八柵町27
	毛野小学校	大久保町1500
	富田小学校	駒場町625
	富田中学校	駒場町359
	北郷小学校	田島町1
	北郷公民館体育館 (地震時は駐車場)	利保町2-14-1
	北中学校	菅田町100
	大月小学校	大月町1089
	旧月谷分校体育館 (地震時はグラウンド)	月谷町1105
	三重小学校	五十部町1060
	山前小学校	山下町1297
	西中学校	山下町2539
	葉鹿小学校	葉鹿町1-14-2

種別	施設・場所名	住所
指定避難所 ※1	坂西中学校	葉鹿町1498
	小俣小学校	小俣町670-1
	山辺小学校	八幡町386
	南小学校	堀込町2719
	山辺中学校	西新井町3157
	矢場川小学校	里矢場町1998
	梁田小学校	福富町392-2
	御厨小学校	福居町19
	協和中学校	百頭町160
	旧協和中(コミュニティ)体育館 (地震時はグラウンド)	百頭町2017
	久野小学校	久保田町216
	筑波小学校	小曾根町517
	愛宕台中学校	高松町433
	広域避難場所 ※2	足利市総合運動場
ばん阿寺境内		家富町地内
足利公園		緑町地内
渡良瀬運動場		伊勢町地内
中橋緑地		南町地内
車中避難場所	足利ガスふれあい公園 (五十部運動公園)	五十部町地内
	コジマ×ビックカメラ (屋上駐車場)	朝倉町243-1
	東松苑ゴルフ倶楽部 (駐車場)	駒場町1234
	スーパービバホーム (屋上駐車場)	堀込町250-1
ヨークベニマル (屋上駐車場)	朝倉町2-21-16	

※1 ■■■ 指定避難所は、地図面の浸水想定区域の浸水深で色分けしています。  
※2 広域避難場所は、水害時の避難所ではありません。

## 防災関係機関

名称	電話番号	名称	電話番号
足利市役所	0284-20-2222 (代)	河南消防署	0284-71-1000
足利市役所 危機管理課	0284-20-2179 0284-20-2247	足利警察署	0284-43-0110 (代)
消防本部	0284-41-3197	国土交通省 渡良瀬川河川事務所	0284-73-5551 (代)
中央消防署	0284-41-3194	栃木県 安足土木事務所	0284-41-2331 (代)